

キューバ東部諸県に甚大な被害をもたらしたハリケーン「サンディ」

10月25日深夜1時25分、大型ハリケーン「サンディ」が、東部、サンティアゴ・デ・クーバ県のマール・ベルデ海岸に上陸し、キューバ東部の諸県、中でも、サンティアゴ・デ・クーバ、オルギン、グアンタナモ県に甚大な人的・物的被害をもたらしました。ハリケーン「サンディ」は、キューバに上陸時、ハリケーンの規模を示すサファ＝シン普森・スケールで5段階のうちの2（5が最大）と分類されましたが、半径220キロにわたる大型で、中心付近の風速は秒速49メートル、瞬間最大風速は秒速55.5メートルを超える強力なハリケーンでした。また、「サンディ」



マール・ベルデ海岸

は、威力を弱めることなく、4時間にわたり、キューバ東部を北上して縦断し、大西洋上に抜け、米国東部の海岸に再上陸し、米国にも大きな被害を与えました¹。

「サンディ」は、キューバ島の南のカリブ海から、サンティアゴ・デ・クーバ湾の西方5kmのマール・ベルデ海岸に上陸しましたので、キューバ第二の都市、人口49万4,000人のサンティアゴ・デ・クーバ市が、すっぽり巨大なハリケーンの中に入ることになります。「サンディ」は、大量の雨ももたらしましたが、むしろ暴風の被害が顕著な風ハリケーンでした。



避難する住民

キューバ政府は、24日から全国防衛評議会(CDN)が指揮して、市民防衛組織(DC)の協力のもと²、革命軍、警察が動員され、東部諸県の住民の一部30万人余を安全な家屋に、また1万4000人余を避難センターに避難させました。しかし、被害は、死者が、11名にのぼりました。このうち、9名が老朽化した家屋の下敷きになった犠牲者でした³。物的被害の面では、家屋、農作物、電線、電話施設に大きな被害を与えました。風ハリケーンの「サンディ」は、猛烈な暴風で家屋を襲い、18万8,179戸が被害を受け、1万7,221戸が全壊、4万戸近くが半壊しました⁴。



キューバ東部は、キューバのコーヒーの主要な産地ですが、ロイター通信によると、ほぼ20-30%の作物が被害を受け、昨年は7,100トンの収穫が、今年度は、4,000トン程度となり、この100年でもっとも低い数値となる見込みです⁵。また、砂糖生産も、6,000トン(200万ドル余)の被害があったといわれています。いろいろな農作物を入れて、農地10万ヘクタールに被害が出たと報告されています。その他の物的被害を総合すると、10月28日まで

のキューバ政府の暫定的予測数値では、21億2,100万ペソに上ると言われています。これは、今年度の計画国内総生産(GDP)505億ペソの4パーセント強に相当します。



海外からも、ベネズエラ、ボリビア、ロシアなどから救援の手が差し伸べられていますが、キューバ国民は、自らの力で復旧を図ろうと懸命な作業を行っています。ラウル議長は、サンティアゴ・デ・クーバの被害状況を視察した際、「サンティアゴは、心を痛めている。まるで爆撃を受けたようだ。しかし、これを克服しよう。

みなさんは、百戦錬磨の人びとだから」と述べて、激励しています。

復旧作業に励む住民

なお、この大型ハリケーン「サンディ」は、北の米国でも、甚大な被害をもたらしました。死者は88名以上、11州の500万人が停電を被り、被害総額は500億ドル以上にのぼると推計されています。こうした隣国のキューバと米国との関係



ですが、気象分野では、2009年から現在の最小限の情報の交換を一層活発なものにしようという動きがあります。両国の気象学者の交流も昨年度より行われています。両国が、情報を共有することにより、適切な避難対策を十分な時間をもって立てることは、人道的見地からも必要ですし、重要なことです。そのことは、現在、米国が、世界の186カ国という圧倒的な国々の意見に逆らって、依然として継続している、対キューバ経済・通商・金融封鎖措置(キューバ経済封鎖)が、不当なものであることを示しています。



サンティアゴ市内



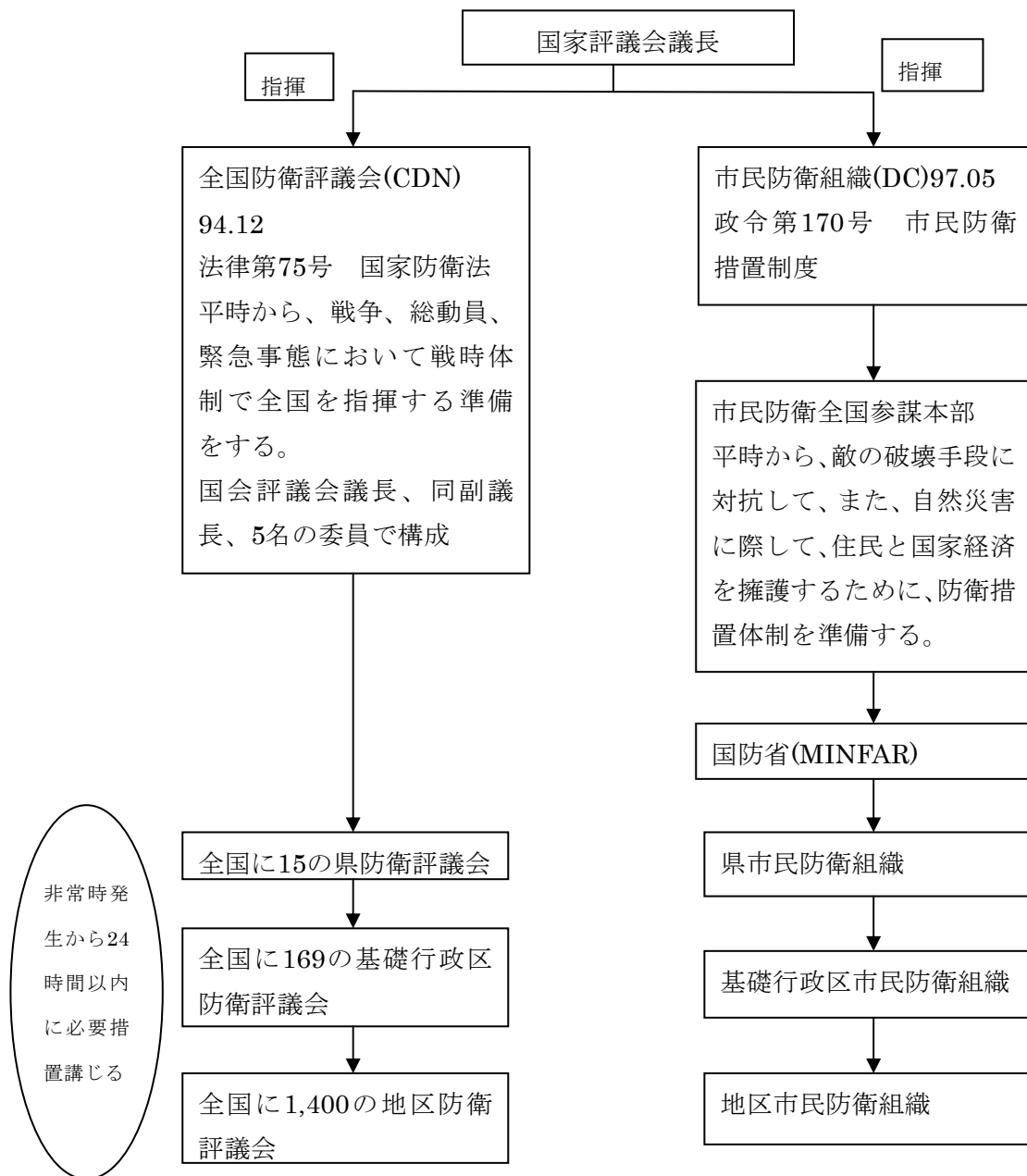
復旧風景



今年のハリケーン

(2012年11月2日 新藤通弘)

キューバの災害・防衛制度、全国防衛評議会・市民防衛組織



憲法第67条 自然災害、天変地異などにより、あるいはそれらが予測され、国内の治安、安全保障、国の安定が乱された場合、国家評議会議長は非常事態を宣言し、住民を動員できる。非常事態の形態、効力、期間は、法で定められる。同様に、非常事態の間、憲法に定められた基本的権利・義務は制限を受ける。

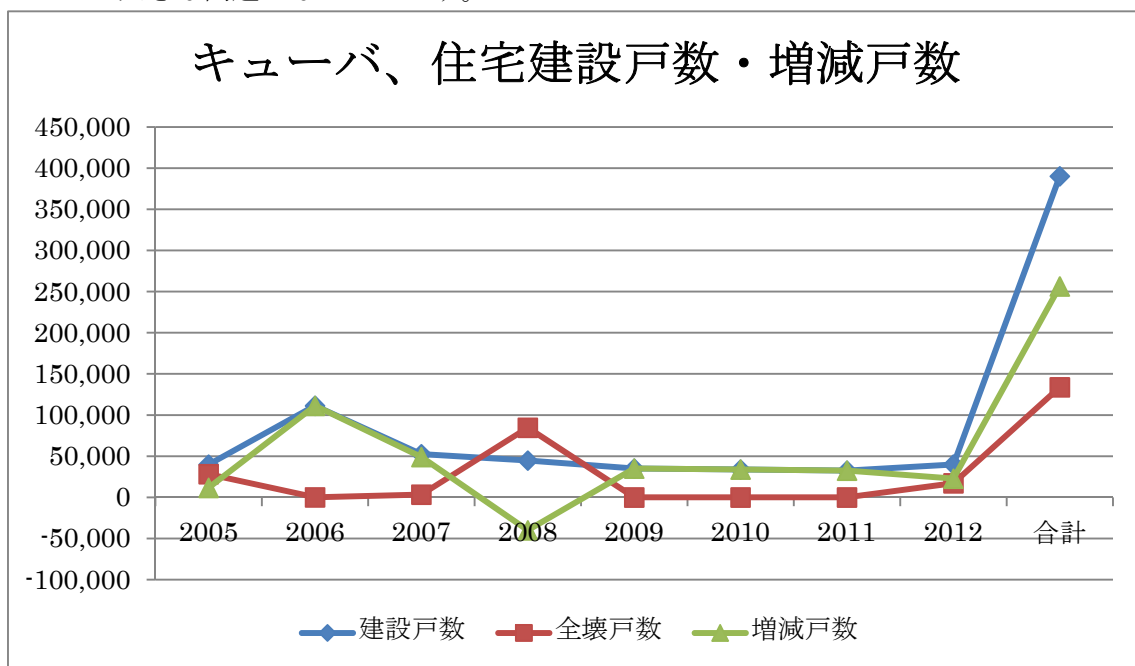
憲法第93条h、i項 自然災害、天変地異、国内の治安、国家の防衛、国家の安全が失われる恐れのあるときに、国家評議会議長に、非常事態の宣言を行う権限を付与し、国家評議会議長は国防評議会を主宰する。

¹ カリブ海は、6月1日から11月30日までが、一般的にハリケーンの季節といわれますが、今年、これまでに19のハリケーン、あるいは熱帯暴風が発生しています。近年巨大ハリケーンが多く発生し、気候変動との関係が議論されています。

² 前記のキューバ民間防衛体制の図を参照ください。キューバの防災体制は、米国の軍事侵攻、あるいは攪乱行為を前提とした国民総動員体制となっており、軍事的色彩を帯びています。したがって、非常時には基本的人権も制限されることになっています。キューバの総動員の避難方法は、人命救助という点では優れた効率を発揮しますが、プライバシーの侵害の問題、個人の権利の制限などの問題を併せ持っていることも見なければなりません。したがって、キューバのこの防災体制を世界がそのまま見習うべきと賛美するのは、短絡的な見解となるでしょう。

³ ベネズエラの支援により建設された、サンティアゴ・デ・クーバ市のペロト・カサ(ベネズエラの技術で建設)は、同じように、今回の強力ハリケーンに襲われましたが、倒壊は皆無で、その堅固さが注目されました。以下の写真を参照ください。逆にいえば、それだけ、キューバの多くの家屋が、老朽化していることを物語っています。

⁴ キューバ政府の発表によると、現在、キューバでは、60万戸の住宅が不足しているといわれています。2005年からの統計では、わずか25万戸しか増えていず、住宅問題は、キューバの大きな問題となっています。



出所：ONE, *Anuario Estadístico de Cuba 2011*.

全壊戸数は、ハリケーンによるもの。

2012年の建設は推定値。

⁵ 信じられないことですが、キューバは、現在、ベトナムから年間18,000トン (3,800万ドル) のコーヒーを輸入しています。さすがにラウル議長も、2010年末の国会で、次のよ

うに皮肉に嘆いたことがあります。

「かつてベトナム戦争の最中、ベトナムに、キューバはコーヒーの栽培方法を教えた。今ベトナムは、世界で第二位のコーヒーの輸出国となっている。あるベトナム政府の高官がキューバ代表団に言った。われわれに栽培を教えたキューバが、どうしてベトナムからコーヒーを輸入するのかと。そのキューバ人は、きっと『アメリカの経済封鎖があるからだ』と答えたであろう」。

サンティアゴのペトロカサ

